



八代和子さん、ブラック司祭と記念撮影

月に引越します。「エー、本当ですか？イギリスのニューカッスルですか。」「違いますよ。オーストラリアにもニューカッスルがあるのですよ。」「オーストラリアに関する知識を全く持た合わせていな

一九五〇年、多くの人たちの反感を買いながら、八代斌助主教のオーストラリア訪問を記念した和解礼拝堂見学を私が望んでいることを、グレゴリー主教に告げました。今年七月、主教はキャンベラの洗礼者聖ヨハネ教会牧師ポール・ブラック司祭に連絡を取ってくださり、私のキャンベラ行きが決定しました。広大な面積をもつオーストラリアにあって、ダーウィン、キャンベラ間は約四千キロですが、ニューカッスルからは、

比較にならないほど、短い距離です。約一か月後、八代主教が贈呈した、竹の十字架の返還式を、九月十七日（水）午前十時から、キャンベラ教区主教臨席のもとで行うことへの了承を、ブラック司祭が求めました。

六十四年前の一九五〇年六月九日、「人との融和、神への改悛」と記された竹の十字架奉獻式が聖ヨハネ教会で行われましたが、この十字架は聖堂内の壁をくり抜き、永久に保存されております。この時、八代主教は、同じ十字架を、オーストラリア聖公会宣教局長で、八代主教のオーストラリア訪問の準備すべてを取り仕切ったアーチディーコン・ロバートソンにも贈呈していたのです。同司祭逝去後、遺族の意思により、聖ヨハネ教会付属小学校展示資料館に展示されていたのです。この十字架返還について、ロバートソン司祭のご子息、ご息女に了解を求めますと、「日本には一つも存在しない、竹の十字架が返還されることはすばらしいことです。」と快諾

## 2つの十字架

昨年の九月、神戸教区事務所で開催された東アジア聖公会協議会常任委員会に、オーストラリア聖公会代表グレゴリー・トンプソン主教がやつてきました。「中村主教、この度、私はニューカッスルの主教に選ばれましたので、二

主教 アンデレ 中村 豊

## 竹の十字架、 神戸教区主教を招く

# 神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2014年  
11月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者  
司祭 芳我秀一

印刷所  
文明堂印刷所

されたそうです。

## 心からの赦しに感動

八代主教はなぜ、竹の十字架を聖ヨハネ教会に贈呈したのでしょうか。この教会の信徒で、戦前、パプア・ニューギニアに看護師として、キリスト教宣教のために派遣されたメイ・ハイマン宣教師の死を悼んでのものでした。しかも、ロバートソン司祭は、ハイマン宣教師を派遣するときの牧師であつたのです。

一九四二年に日本軍がパプア・ニューギニアを占領したとき、三百三十三名のキリスト者が殺されました。そのなかの一人がハイマン宣教師であり、教師のマービス・パーキンソン宣教師と共にウルルという場所で、銃剣により刺し殺されました。

キャンベラ在郷軍人会がボイコットするなか、八代主教はハイマン宣教師追悼式を司式しましたが、補式したのは、陸軍チャプレンで少佐のバシユフォード司祭でした。司祭は、戦争中、ビルマの捕虜収容所で、オーストラリア人捕虜八名を惨殺したとして、イ

トイ少佐の裁判の証人として出廷することを拒否した人物でした。「ああ、豪州」で八代主教は、次のように説教されました。

「今晚、ここに戦争中殉教したハイマン宣教師を記念するにあたり、心の痛みを感じます。謹んで遺族へ遺憾の意を表します。このようなみじめな心でここに立つことができるのは、ただキリスト者としてのすばらしい交わりを信じるからです。戦争中、私たちもまた、敵味方の区別なくこの交際を続けることができました。故国に帰り得ずして遺された宣教師らと私どもとの交わりは、じつに戦争中のあの暗きなかに輝く光でありました。なぜ、キリスト者における交わりはこのように根強いものなのでしょう。それは神より生まれるものであり。とも主イエスの肉と血を分かち合う交わりであり、さらに代祷として神の前に昇りうるものであるからです。この交わりをもって、どうか、この世界にあるうらみの心をくだき、美しい平和な神の国を造りたいと思います。」

式後、八代主教はハイマン宣教師の妹さんと和解の握手をし、「この一人の女性の心からの赦しこそ、この度の旅行の圧巻であった。」と述べております。

### 和解の使者として立つ

九月十六日(火)午後遅く、キャンベラ空港に到着した私たちをブラック司祭は出迎えてくださり、早速、夕暮れ時の市内を車で案内してくれました。夜は、聖ヨハネ教会信徒有志約二十名がヨットクラブに集い、歓迎夕食会が開催されました。その中の一人の信徒は、「私は八代主教を覚えております。私が五才の時、両親に連れられて十字架奉献式に参加しました。」とおっしゃっております。

十七日(水)午前八時より、ブラック司祭と私たち夫婦はヨハネ教会に行き、竹の十字架が埋め込んである場所で、朝の礼拝を献げました。

午前十時からの十字架返還礼拝には、八代斌助主教のご令嬢八代和子さんと、和子さんのご息女恵さん、そしてハイマン宣教師の甥御さんも臨

席しました。式のなかで私は、八代主教の説教のあらましを紹介し、何故、ハイマン宣教師が、パプア・ニューギニア残留を決心したかについて話しましたが、それは、一九四二年、日本軍がパプア・ニューギニアに侵攻する直前、ラジオを通して、フィリップ・ストロング主教が語ったメッセージに基づくものでした。概要は次の通りです。

「今、日本軍はこの地を攻めようとしているが、もしもここで宣教師である私たちがこの国を去れば、二度とこの地に戻ることはできないし、パプア・ニューギニアの人たちとの再会は不可能である。教会の歴史を紐解けば解る通り、危機的状態に陥ったとき、福音宣教師は、自分のことを考えてはならない。主は私たちに、パプア・ニューギニアの人たちに仕え、愛するよう呼びかけている。『自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る(ヨハネ12・25)』のである。」

「ハイマン宣教師は、日本軍が占領する前に故国に帰ること

とできませんでした。しかし、自分に敵意を持つている人たちのためにも十字架上で苦しみ、死なれたイエスの生き様、死に様を思い描き、パプア・ニューギニアの人たちと、生死を共にするために残留を決断しました。これによって命を失いましたが、いかなる外圧によっても、キリスト教信仰を打ち負かすことができないこと、神との絆をうち砕くことができないことを、ご自身で証しし、パプア・ニューギニアの人たちにキリスト教信仰の神髄を示したので

式後、平和の象徴として、

輪島塗りの鶴の皿を聖ヨハネ教会に贈呈しました。

六十四年前、戦前・戦中を生きたキリスト者、八代斌助主教が日本を代表して単身、オーストラリアに乗り込んでオーストラリアの人たちに赦しを乞い、和解を訴えたことを通して示した平和を希求する姿勢を、今を生きる私たちキリスト者も、継承することが求められます。特に、東アジア各国の平和に関し、キリスト者としてどのような貢献ができるかが真剣に問われていることを、今回の旅で痛切に感じました。

(神戸教区主教)



輪島塗りの皿と竹の十字架

## 姫路顕栄教会

## 創立125周年記念礼拝を挙行!!

司祭 ヨハネ 芳 我 秀 一

1889年(明治22年)、兵庫県加東郡福田村中古瀬(現加東市中古瀬)に教会堂が建立され、顕栄教会と命名されてから、

今年で125年を迎えました。中古瀬は明石から北へ30km程の所に位置しています。



中古瀬のある北播磨は人柄が温和で、早くから交通路が開け、都の文化が流入した地方でした。宣教師たちは日本人の伝道師たちと共にそこを伝道の拠点として活動しましたが、思うように教勢は伸びず、明治の終わり頃に姫路に移転することになり、中古瀬の教会の土地・建物を売却して得た資金で、姫路城の近くにある五軒邸に土地と建物を購入して姫路での伝道が始まりました。

大正時代に入ると教会は順調に教勢を伸ばしましたが、昭和に入り、太平洋戦争中の二度の空襲によって礼拝堂は焼失しました。しかし、戦後しばらくして教

会 は再建されましたが、日本社会は高度経済成長期に入り、社会の変化に伴って、1965年(昭和40年)、教会は五軒邸から新日鉄のある広畑に移転しました。その時、教会は附属の聖ミカエル広畑幼稚園を創設して地域社会に奉仕する教会として今日に至っています。

2014年9月23日(秋分の日)。朝から快晴でした。教区内の諸教会から、また東は東京西は九州から三百名もの人々が参集され午前10時30分から礼拝堂と幼稚園の体育館を使用して記念礼拝が行われました。会場はほぼ満員となり、心を一つにして折り、主の食卓を囲みました。

その後、幼稚園の園庭に会場を移し、用意された折り詰めのお弁当と姫路名物「駅そば」をいただきながら久しぶりに会う懐かしい人々の会話がいたるところで聞かれました。またゴスペルシンガルの文屋範奈さんとピアノの坂本真紀さんをお迎えして素晴らしい歌と演奏を楽しませていただきました。

長い間、教会と幼稚園を支えて下さった神に感謝すると同時に、これからもキリストの後ろ姿を仰ぎ見ながら、キリストに守られて歩んで参りたいと願っています。

(姫路顕栄教会牧師)

## 聖オーガスチン教会

## 建築奮闘記⑧

クララ 吉谷かおる

暑い夏が過ぎ、季節は進んで教会の銀杏の木が実をつけているのが見えるようになりました。

ご支援いただいている教会ホール・牧師館の建築も順調に進み、7月22日には起工式、8月28日には上棟式が執り行われました。鉄入れ、棟上げなどを身近に見るのは私にとって初めての体験で、所作の一つ一つを興味深く見守りました。起工式では角瀬司祭に先導され信徒が詩編51編を唱えながら敷地をぐるりと一周しました。

「縄張り」の状態では敷地面積が思ったより小さいように感じましたが、土台ができ、柱が組まれ、とプロセスが進むにつれ、私たち教会員が夢を語り知恵を絞った建物が現実のものとなって姿を現してきました。9月末現在ではもう壁ができ、屋根がかかっています。当初の予定よりも進行が早く、クリスマス行事には間に合わないでしょうが、年内にも工事が終わるかもしれないということです。礼拝堂だけでやりくりする不自由な

## 収穫感謝献金のお願い

昨年に引き続き、岡山聖オーガスチン教会のためにお献げします。目標額 300 万円。11/23(日)までにお献げくださり、教会ごとにまとめて教区会でお献げください。

生活も先が見え、来年のいつ頃なら竣工式を行ってみなさまにご披露できるか、記念品は何がいいだろうか、もうそんな話題も出ています。来春当教会での結婚式を希望してくださっているカップルがあられますし、夏には聖公会女性フォーラムの会場になるかもといううれしい予定も入ってきています。

素敵な建物ができそうで心が浮き立ちますが、その一方で教会内外から多くの献金をお献げいただきながらも「まだ全部で一千万円足りない」という厳しい現実があります。また、大事なのは器ではなく中身のだから、信徒一人ひとりが確かな宣教のヴィジョンを持っていなければなりません。建築中の岡山の教会にもお越しいただいて、よいアイディアを分かち合っていただけだと思います。

# 米国聖公会主教会 日本訪問団を お迎えして

ステファニア 浜井 美喜

「私どもは広島に巡礼に来ました。神戸教区の皆様の温かいおもてなしを本当に嬉しく思います。」長身で、銀髪と青い瞳の美しい、米国聖公会デラウェア教区のウエイン・ライト主教様のレセプションでのご挨拶を聞きながら、私たちはころかほっとしました。

9月17日から23日まで、米国聖公会の一部である台湾で米国聖公会主教会が開かれ、ショール総裁主教を含む多くの主教が参加。主教会終了後はアジアの国々を訪問して、各国の聖公会の活動を見て学ぼうということになったそうです。そこで、主教10名(内5名は夫人同伴)、米国聖公会の広報担当・旅行の世話役を含むスタッフ4名、計19名が訪問先として日本を希望され、特に「ヒロシマ」をぜひ、ということ、夏の間から勉強し、各教会で折鶴を準備して、今回の広島訪問が実現しました。

私たちは米国側の希望を基に、レセプションや平和資料館・平和公園の見学の準備、差し上げる資料やお土産の用意、各方面への連絡・依頼等を、秋の諸

行事の忙しい合間を縫って、どうにかギリギリで間に合わせ、当日は穏やかにお客様を迎えることができました。

24日の夕方からの歓迎レセプションはトルハースト司祭様のユーモア溢れる司会で始まり、まず「母たちの祈り」という原爆のドキュメンタリーを見ました。そして、中村主教様とライト主教様の挨拶で始まり、美味しい料理と豊かな会話を楽しみ、私と京都教区の高地主教様の挨拶をもって閉会となりました。

翌25日は朝9時から平和資料館と平和公園の見学に行きました。広島ピースボランティアの今田洋子先生と英語の堪能なガイドお二人に案内をお願いして、午前中いっぱい学びの時間を過ごしました。熱心に質問をされる方、涙を流して立ちつくす方、絶句して天を仰ぐ方・・・アメリカの方々には「ヒロシマ」を深く受け止めてくださったように思います。正午には次の訪問先の東京へ向かうため、バスで広島駅へ移動し、新幹線のプラットホームでお見送りをしました。

忙しいスケジュールでしたが、参加者全員にとって忘れられない二日間になりました。その陰にたくさんの方々の奉仕と祈りがあったことに心から感謝しつつ、ご報告とさせていただきます。

(広島復活教会)

## 鳩だより 《敬称略》

### 祝 洗 礼

9月28日(日)  
エリザベス  
稲田 麻里  
神戸聖ミカエル教会

### 祝 堅 信

9月28日(日)  
エリザベス  
稲田 麻里  
神戸聖ミカエル教会

### ご 逝 去

8月30日(土)  
マグダラのマリア  
池野 千里  
明石聖マリア・マグダレン教会

9月2日(火)  
マリア 播磨 貞子  
鳴門聖パウロ教会

9月10日(水)  
マリア 伊藤 麗子  
明石聖マリア・マグダレン教会

9月27日(土)  
マリア 金子 孝子  
神戸聖ミカエル教会

### 教 籍 移 動

9月1日(月)  
バルナバ 森 田 朋博  
マリア 森 田 美名  
神戸聖ミカエル教会より

9月4日(木)  
日本基督教団美賀多台教会へ  
マリア 林 愛  
マリイモードリン

パウロ 林 愛満  
倉敷聖クリストファー教会より

神戸聖ミカエル教会へ

## 公 示

日本聖公会神戸教区第82(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2014年9月30日  
日本聖公会神戸教区 教区会議長  
主教 アンデレ 中村 豊

記

日時：2014年11月24日(月)  
午前8時から午後5時まで

場所：神戸聖ミカエル大聖堂

書記を下記のように任命します。

司祭 シモン 原田 佳城  
司祭 ペテロ 中原 康貴

### 瀬戸内伝道区

#### ◎伝道区信徒修養会

9月15日(月)、瀬戸内伝道区の信徒修養会が開かれた。瀬戸内伝道区は、毎年、各教会が持ち回りで修養会を企画しているが、本年は高松聖ヤコブ教会が当番であった。昨年の伝道区会の際、伝道区内の各教会信徒が出会う機会を数多くしようということになり、出来るだけ多くの方が参加しやすく、また初

### 徳島伝道区

#### ◎伝道区信徒研修会

9月23日(火)、伝道区信徒研修会を徳島インマヌエル教会で行った。テーマは「聖餐式とみ言葉の礼拝」。河村博之司祭がみ言葉の礼拝について改訂点も含めて解説した。午後から信岡司祭を講師としてお招きし、オルターとサーバーについて講話を聞いた。参加者28名。

### 12月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2014年12月4日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司式 主教 中村 豊  
説教 司祭 瀬山 会治

#### \*12月の記念逝去教役者\*

|     |    |       |        |     |
|-----|----|-------|--------|-----|
| 2日  | 主教 | チャニング | ウイリアムズ | 泉三  |
| 2日  | 司祭 | ヨハネ   | 長寄     | 慶祐  |
| 5日  | 司祭 | テモテ   | 岩井     | 祐彦  |
| 7日  | 司祭 | パウロ   | 武田     | 頼夫  |
| 10日 | 司祭 | パウロ   | 島田     | 信太郎 |
| 10日 | 司祭 | イブリン  | 大石     | 虎太  |
| 14日 | 司祭 | ペテロ   | 水野     | 功   |
| 14日 | 司祭 | ペテロ   | 貫形     | 主税  |
| 16日 | 司祭 | マリー   | 尾ホス    | 虎三  |
| 19日 | 司祭 | ハナ    | コ      | ムツ  |
| 20日 | 司祭 | ペテル   | 加藤     | 九   |
| 21日 | 司祭 | マリー   | 伊      | 十   |
| 29日 | 司祭 | オー    | ドリー    | 八   |
| 30日 | 司祭 | マル    | コ      | 野   |
| 31日 | 司祭 |       |        | 貢   |

めて顔を合わせる人たちが話をしやすい場を作ることを心がけた。そこで高松市内の保養施設を借りて、バーベキュー、お茶席、手打ちうどんにカラオケと、参加者が和気藹々、楽しく過ごせるものにした。約40名が参加、良い出会いの機会となった。